

# 社協職連協にゆ～す



第33号

発行：茨城社会福祉協議会職員連絡協議会

令和2年2月28日 発行

## 職連協のこれからを考える委員会

職連協は、これまで多くの諸先輩が社協職員の活動促進を目的に研修会や各種イベントを展開してきました。職連協設立から約40年が経過し、職連協はどうあるべきかについて、「職連協のこれからを考える委員会」を設置して、昨年1月から8回にわたって議論を重ねてきました。これからの考える委員会では、職連協組織そのものの存在の必要性の検討から始まり、アンケートを基に職連協が組織的に抱えている課題について方向性を示す議論を行ってきました。議論の結果については、令和2年2月3日の理事会で報告されました。

今後、関係市町村社協、職連協支部運営委員等に送付する予定です。

期 日	内 容
H31.1.29	第1回委員会 職連協の現状について
H31.3.15	第2回委員会 職連協の現状について
H31.4.24	第3回委員会 意識調査アンケート項目について
R1.7.25	第4回委員会 アンケート集計結果について
R1.8.22	第5回委員会 アンケート現状と課題について
R1.9.26	第6回委員会 報告書の役割分担・骨子(案)について
R1.11.29	第7回委員会 報告書案の検討
R2.1.10	第8回委員会 報告書案の検討

## 第2回 職連協理事会・代議員会

令和2年2月3日、令和元年度第2回職連協理事会・代議員会が開催されました。

### ◆報告

(1) 令和元年度茨城県内社会福祉協議会職員新任・初級研修アンケート結果

(2) 令和元年度市町村社会福祉協議会における人材育成に関する調査結果

### ◆協議事項

(1) 職連協のこれからを考える委員会報告書について

(2) 令和2年度事業計画及び予算(素案)について

(3) 茨城社会福祉協議会職員連絡協議会理事・代議員の選出並びに支部長・支部運営委員について

(4) 茨城社会福祉協議会職員連絡協議会支部活動について

(5) 第57回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会について

## 第57回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会

神奈川県大会のテーマ

Change! Challenge!  
to the future

～社協には地域と未来を  
変えるチカラがある～

第57回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会は7月9日(木)～10日(金)の2日間、神奈川県で開催されます。

茨城県は、第1分科会「これからの社協が行う【相談支援】の在り方」とは「を静岡県と一緒に担当します。

職連協から参加費の助成もありますので、皆さま奮ってご参加ください。

# 茨城職連協 令和元年度の事業報告

●理事会（2回開催） ●代議員会（2回開催） ●監査（1回開催）

●職連協のこれからを考える委員会（6回開催）

●みんなの幸せづくりをすすめる研究会（通称：ポヌール会議）」

●社協職員新任・初級研修の開催

日程：令和元年7月4日(木)～5日(金) 1泊2日

場所：いこいの沼沼沼

参加者：30名

研修を通して、社会人としてだけでなく、社協の役割と自身が目指す職員像を考えていくことができました。

●第56回関東ブロック都市町村社協職員合同研究協議会

日程：令和元年7月29日(月)～30日(火) 会場：東京都 国際ファッションセンター(KFCビル)

参加者：15社協25名

基調講演：「今こそ社協の底力～地域の共創のために～」

講師：日本福祉大学教授 原田正樹氏

茨城県は第1分科会を担当：テーマ「生きづらさを抱える人たちの寄り添う居場所づくり」

●広報・啓発活動

◆職連協ニュースの発行(年2回)

◆茨城社会福祉協議会職員連絡協議会名簿の作成

◆茨城県内社会福祉協議会事業概要及び職員設置状況調査



◆「がんばるあなたに。からだリセット疲労回復ストレッチ」を開催しました  
令和元年11月1日、土浦市総合福祉会館6階老人福祉センターウララで研修会を開催しました。当日は11人が参加し、講師の木村幸子先生のご指導の下、楽しくストレス発散ができました。

◆「生きがい支援のためのボウリング普及交流会」を開催しました  
令和2年2月8日、大学ボウル土浦本店にて、令和元年度2回目の研修会を開催しました。25人も参加があり、和気あいあいとボウリングができました。

研修会終了後には、土浦市内で交流会を行いました。食事をとりながら、和やかに交流ができました。

第33号の編集は  
県南支部が担当しました。

県南支部の活動紹介コーナー

県南支部は、茨城県の南にある、かすみがうら市・石岡市・土浦市・つくばみらい市の4市の社協で成り立ち、会員数は130名です。昨年度は、支部で2つの研修、1つの交流事業を企画・開催しました。